

心に寄り添う 小児医療を目指して

2012年5月1日に熊本赤十字病院子ども医療センターが開設され、早いもので10年が過ぎました。この10年の間に、小児科医の増加、PICU（小児集中治療室）開設、小児救命救急センター認定、小児特定集中治療室管理料算定、搬送システムの確立、熊本地震、令和2年7月豪雨、COVID-19、少子化、働き改革など小児医療にとって様々なことがありましたが、当院のスタッフ一丸でやって参りました。

子ども医療センターでは、当院の基本方針である救急医療を継続し続けていますので、今後とも相談頂けますと幸いです。一方、小児専門診療は近年、消化器、腎臓、循環器に特に力を入れております。消化管内視鏡検査、血液浄化療法、腎移植、心臓カテーテル検査、気管支鏡検査なども安全に施行できる体制になっております。また小児在宅医療支援外来（すこやか外来）も始めました。

救急のみならず、小児専門診療にも注力する熊本赤十字病院小児科は、次の10年に向けスタッフ一丸となって地域に貢献して参りたいと思いますので、引き続き叱咤激励を頂きますよう、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



第一小児科部長・子ども医療センター長
平井 克樹
第二小児科部長
武藤 雄一郎

PICU

第一小児科副部長

加納 恭子 かのうきょうこ



小児
循環器

第一小児科副部長

本田 啓 ほんだけい



PICU(Pediatric Intensive Care Unit)は「こどものためのICU」です。当院は8床のPICUで、約400人/年の小児重症病態管理・周術期管理を行なっています。小児救命救急センターと連携して内因・外因問わずあらゆる疾患に24時間365日対応しており、全身管理を行いつつ各専門医と協働で診療して



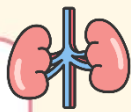
います。また、看護部、薬剤部、臨床工学課、栄養課、リハビリテーション課など多職種で連携し、チームとしてこどもたちの急性期診療から退院後の支援まで充実した医療が提供できることを目指しています。

日本有数の症例数である川崎病をはじめ、心筋炎、心筋症、不整脈、先天性心疾患症例(成人含む)、学校心臓検診の診療を行っています。各部門と連携し、川崎病診療における血漿交換療法や重症心不全管理の一環としての補助循環なども対応しています。また、循環器内科をはじめ各科との連携のもとカテーテル検査、治療(アブレーション含む)、



心臓MRI、CT、シンチグラフィ、心肺運動負荷試験など各種専門検査、治療を行います。外科治療を要する場合などは他院にご協力いただくこともあります。

小児腎



小児腎臓科部長

伴 英樹 ばんひでき



小児慢性腎臓病および小児末期腎不全の最も重要な原疾患である先天性腎尿路異常(低形成・異形成腎、腎無形成症、



水腎症、膀胱尿管逆流など)をはじめ、その発見契機として重要な尿路感染症、検尿を契機に見つかる腎炎・ネフローゼ症候群、そして急性腎障害といったさまざまな小児腎疾患を診療しています。また、日本アフレスシス学会認定施設、日本急性血液浄化学会認定施設

を取得し、小児の難治性疾患の救命向上に寄与できる体制を整えています。さらに、腎代替療法が必要になった末期腎不全の子どもたちに対する腎移植(生体、献腎)を行っています。

小児救急

第一小児科
副部長

余湖 直紀

よごなおき



当院の小児救急は24時間365日稼働しており、2013年に全国で5番目、西日本では初となる「小児救命救急センター」の指定を受けた施設です。ドクターヘリの基地を兼ね備えた全国初の施設でもあり、広域の迎え・搬送を含め、熊本県内にとどまらず県外の医療機関からも紹介を積極的に受けています。1次から3次救急までの役割を担っており、2021年のコロナ禍においても、救急外来受診者総数40,859人のうち11,375人の小児患者の対応をしています。

対象疾患は、内因性と外因性の両方の診療を行っています。総合病院の強みを生かし、各科と連携することで、横断的な診療が可能です。救急外来で見つかった専門的診療を必要とする患者さんに



対しては、当院の専門外来や関連医療機関等での専門診療につなげることで、一貫した診療を行います。

小児 消化器



小児消化器・肝臓科部長

高木 祐吾 たかきゆうご



消化器疾患(消化管・肝・胆道系・膵など)は成人領域ではメジャーですが、小児科領域では症例数も少なく比較的新しい分野であるため、全国的にも専門施設・医師が少ないのが現状です。特に九州では専門施設が限られており、診断や治療法も施設により様々で画一されていません。一方で、炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎・クローン病)などは近年、発症数が増加傾向にあります。また、複数の分子標的薬や免疫調節薬の台頭など治療法も多様化し、治療にあたって高い専門性が求められるようになりました。

当院小児科では、小児救急・集中治療、循環器、



腎疾患などの専門領域に加え、小児消化器疾患に対応しております。便秘、下痢、腹痛などの身近な症状はもちろん、持続する血便、ウイルス肝炎や胆汁うっ滞などの肝・胆道系疾患、



膵炎などの膵疾患、重症の急性(劇症)肝不全に至るまで、各科と連携をとりながら対応いたします。



コロナ流行下では、小児の新型コロナウイルス感染者の対応も救急外来で行い、他施設での対応が困難な症例を受け入れています。小児専用の集中治療室



(PICU)も併設しており、重症度の高い疾患に対して、救急から集中治療へ速やかに移行できる体制を継続しています。当院で施行不可能な医療が必要な場合は、専門施設への広域搬送も遂行しています。

このような特色を生かして、これからも軽症から重症までの小児救急患者に対応し、地域の小児救急医療を支え続けていきます。